

- (1)大阪都への3視点
- ①法的措置
 - ②大阪都市ビジョンの確立
 - ③財政改善、府市政一新

(2)法定措置

大阪都法の形態 = 政府提案か議員立法か

問題点 政府提案 = 地方制度調査会で時間がかかる……官僚のワナ

議員立法 = ｲ) 内閣法制局の協力が得られない

ロ) 各政党の案が一本化し難い — みんなの党案と自民党案

ﾊ) 国会審議日程が取り難い — 各党国会対策委員会

対策 ・議員立法の方向で各党一本化を誘導する。

・大阪府市原案の作成を急ぐ。

古賀顧問、原顧問らを加えて大阪府市原案の作成を進める。

議員立法をやった経験のある人は少ない。私はNPO法、PFI法など議員立法を指揮した経験があるので、国会対策などの指導に務めたい。

(3)大阪都市ビジョンの確立

問題点 ｲ) 現在の大阪府の開発事業構想は、四全総に基づく成長時代の発想で、競合的計画が多く、現実的ではない。

ロ) 「大阪都」をどんな都市にするか、明確なビジョンがない。

ﾊ) 人口高齢化、低成長の知価社会に適した「大阪都全体構想」が必要。

ﾆ) 大阪の行事は散漫で、「やりたい人の行事」になっている。

「見たくなる行事」「全国放映される行事」を選んで行う。

対策 ｲ) 大阪都ビジョンを策定する。

ａ．都市の性格（世界、全国、関西での役割）

ｂ．人口、経済生産、文化教育、福祉環境、観光行事、財政、組織の目標値

- c. 上記を達成するための短期（当初の１年間）、中期（４年間）、長期（１０年間）計画と手順
- d. 短期、中期については、具体的費用裏付けを加える。
- ㍑) 地域別の性格付けを明確にする。
 - a. 府市の多数のプロジェクトの整理、中核プロジェクトの選定
 - b. 各地区（特別行政区、府下市町村）の象徴的事業と組織
 - c. 財政基準の想定
- ㍒) 成長戦略への道筋
 - a. 政財学芸の懇談会（国際的著名人の活用）
 - b. 条例規制の見直し、法改正事項の要望
 - c. 雇用拡大計画、貧困撲滅計画
 - d. 既存施設の整理と活用（売却を含む）
 - e. 商業、観光、名所名物の創造
 - f. 全国情報発信機能の設立
 - g. 目標年次での巨大大行事の設定

(4)財政改善、府市政一新

- 目標
 - ㍑) 交付団体からの脱却
 - ㍒) 府市職員を「負け犬根性」から「勝ち馬精神」へ
 - ㍓) 大阪都内財政調整の策定（大阪都に実現性を持たす）
- 対策
 - ㍑) 支出削減、項目別目標
 - ㍒) 二重行政の解決、府市組織の統廃合
 - ㍓) 補助団体の統廃合
 - ㍔) 人事慣行の改革（身分から職業へ）
 - ㍕) 落札最低価格制の廃止
 - ㍖) 府市債務の特別区への振替え検討
 - ㍗) 成長、増収の見通し
 - ㍘) 余剰資産の売却、活用の検討

(5)大阪都市グランド・デザイン＝大阪都は何を目指すか

イ)成長都市——国際都市競争に勝てる効率、安全、楽しさを持った大都市

a)今後 10 年間の平均成長率を名目 3 %程度にする。

b)大阪都の人口は減らさない。自由化によって若者(30 歳以下)の比率を保つ。

c)大阪市場圏を拓げる—北陸新幹線の早期結合等

ロ)便利な省エネ都市（利便都市）

a)市内交通の改善（地下鉄相互乗入れ等）で、交通条件を改善する。

b)都市域の集約と混合化（周辺部は「歩いて暮せる町」とする）

c)街灯の LED 化促進（日本一明るい町、夜も太陽光）

現在の開発プロジェクトを整理、重点開発拠点を少数にする。

ハ)知恵の集まる情報都市（知価都市）

a)基礎教育の徹底＝教育基本条例、小中学校の統合集約

b)大学の市内誘致、大学・研究機関、経済文化調整機関の優遇

c)情報発信機能の確立（テレビ局の育成、インターネット局の開発、
先物取引所の育成）

ニ)楽しい大都市（名物名所造り—観光バスの復活）、ワクワク都市

a)10 大名物造り—北梅田空中森林など（並みのものは造らない）

御堂筋ファッション・ストリート化等

b)既成施設の名所化—大阪駅前ストリート・コンサート、南港の名所化

交番デザインコンペ

c)大阪都発足大博覧会—道頓堀を遊泳地に 大阪城で大博覧会

（小さな行事をバラバラやらずに、全世界発信の儲かる行事を行う

＝ 儲からなければ文化ではない）